

資料室便り

交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）

『鉄道重大事故の歴史』

——鉄道事故に見る安全技術の進化』

久保田博著／グランプリ出版発行／2024年1月／
A5判／197ページ／3,080円（税込）

日本の鉄道における定時性と安全性の高さはよく知られているが、そこには過去の鉄道事故の教訓を安全技術に活かしてきた歴史が存在する。史上初の鉄道人身障害事故は1830年9月15日、リバプール＆マンチェスター鉄道の開業式典当日に起きた。また、日本では新橋～横浜間開業2年後の1874年10月11日、新橋駅構内の分岐器進入時に日本最初の鉄道事故である列車脱線事故が起きている。本書は、鉄道創業期の事故から2005年の福知山線脱線事故に至るまで、国内・海外の重大事故を分析し、事故原因やその後の安全技術の進化過程を元国鉄技術者が解説。『鉄道重大事故の歴史』（第4刷、2005年発行）の内容を基に見直しを加えた新装版となっている。 原□

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『交通市場政策の構造』

斎藤峻彦著／中央経済社発行／1991年10月

本書は、交通経済学の研究者（執筆当時近畿大学教授、のちに日本交通学会会長）が、現実の交通問題および交通政策と交通経済理論がどのような点で、どのように関わり合っているかについて明らかにしたものである。交通市場政策とは、交通

市場システムに関連性を有する一連の交通政策のことである。交通の近代化により、鉄道・船舶の独占時代に終止符が打たれ、自動車交通や航空輸送が拡大するとともに自家用車が普及し、異種交通手段間の競争の時代が訪れ、[参入規制+内部補助]型の交通市場政策は転換されることとなった。このような交通市場政策の歴史や重要な論点などについて、海外の事例も取り上げながら考察している。「運賃料金政策」では、自然独占型交通産業および共通費の存在を条件とした運賃理論を類型化し、目的、原理、方式などの関係性を明らかにしたうえで、都市大量輸送における時間帯別運賃制度の実用化や需要低密地域における公共交通運賃などについて検討している。 古森□

■新着情報（2024年1月分）

- 1 地域公共交通活性化再生法——法律・施行令・施行規則等 信山社 2023年11月
- 2 国鉄史 鈴木勇一郎 講談社 2023年12月
- 3 タイ鉄道の凋落と復権——1975-2015年 柿崎一郎 日本経済評論社 2023年12月
- 4 全国鉄道地図帳〔第2版〕 昭文社 2023年12月
→続きの情報はホームページで

*上記以外の新着図書や新着雑誌につきましては、ホームページをご覧ください。キーワードによる蔵書検索も可能です。併せて月別の「新着図書目録」も掲載しています。



■資料室からのご案内

「資料室便り」は昨年4月からコンパクトになり、情報をより凝縮してお届けしています。上記にもありますように図書・雑誌の新着情報などは、ホームページで入手の状況が確認できます。

担当：土方規義 古森崇史 原祥太 田邊由佳